

## 1 特別フォーラムに参加して

本日、紹介を頂き、学習院同窓会桜友会主催の「どうする日本・夢の海洋資源」と題する特別フォーラムに参加した。コーディネーターは読売テレビの特別解説員岩田公雄氏、講演者は、元資源エネルギー長官で現在独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)理事長の河野博文氏、東海大学教授山田吉彦氏である。何れも学習院のOBである。皇太子殿下のご臨席もあり、時局柄、興味と関心を引くテーマでもあったのか、記念会館には大勢の聴衆が詰めかけた。流石に、品は宜しかったが・・・



上図はチラシ。JOGMEC が如何に海外の資源開発調達に努力しているかその現況と海洋資源の開発について、説明して頂いた。

詳細なデータは失念したが、シェールガス、東シベリア事業、モザンビーク、チリ、南アフリカ等の海外資源確保、メタンハイドレードは来年には生産実験開始、海底熱水鉱床等も有望、日本の地熱は世界3位であり将来有望等々の説明があった。問題は技術開発、海洋環境への配慮等必要である由。採算に見合うか否か、採算に見合う技術開発が出来るかどうかポイントだろう。アメリカもシェールガスの技術開発で、資源大国になりつつある。日本もその可能性があり、その為の国家資源の集中が必要である。

山田氏は、海洋に関する法的枠組みと我国の海洋大国たる状況を説明し、国家戦略策定の重要性を指摘し、日本の今までの海洋に関する各種の知見等を武器にリーダーシップを発揮すべきと説いた。また、北極航路の開発の利点と北方領土の関係を述べ、尖閣は自然の宝庫であり特別保護区とすべしと。

両講師の提起された問題は、将来の我が国の行く末を問うものである。国家戦略の確立が求められる。

## 2 解散総選挙について

野田首相の今般の解散決心について、玄人筋では評価が高いようだが、それが投票行動にどう結ぶのか読めない。小党乱立のままで選挙戦に突入するのだろうか、それとも所謂第三極が大同団結して、自・民に匹敵する勢力となり、政界再編成が進むのか、或いは民主党の凋落と自民党の過半数また公明党と合わせての過半数獲得で政権交代で決着するのか興味は尽きない。

何れにしろ、民主党政権3年半の決算をすべきである。幾らか立て直されたとはいえ、毀損された日米関係を如何にして再構築・深化するのか、大衆迎撃的な選挙戦術からの脱却が出来るのか、国民も幾らか利口になった筈だ、成熟した民主主義に移行できるのか、相も変わらず、衆愚政治に墮するのかの路に立つ選挙でもある。

民主党に政権を任せての壮大な政治的実験を経ての、来るべき政権には、それが民主党であっても、日本が直面している山積する国難ともいうべき課題に真正面から向き合い、国家百年の大計をしっかりと構築して頂きたいものである。

確固とした信念と見識を持った人物を選ぶべきである。風やムードで選んだ結果が現状だ。チルドレンやガールズは如何なる役割を果たしたのか？

国民の成熟こそが民主主義成功の鍵である。政治家を見極める見識・常識を持たねばならない。失われた20年という文言があるが、失われたこの3年半の影響は大きい。

成熟した国家となるために、日本が通らざるを得なかった3年半の道程だったと思いたい。それでなければ遣り切れない。

日・中・韓・米の我が国の関係国の全てでトップリーダーが交代する。最高のリーダーを選びたいものだ。間接民主主義だから直接には選べないが、国家観のしっかりしたリーダーこそが求められている時代である。